

1106 国際ジャーナリズム論	
英名科目名	International Journalism
大学名	立命館大学
連絡先	【衣笠教学課】TEL：075-465-8310
担当教員	白戸 圭一
開講期間	2021年04月06日（火）～2021年07月21日（水） < 毎週水曜日 > 1時限：9:00～10:30 < 教室案内 > 「立命館大学の開講科目を受講する皆様へ」から確認してください。 http://www.ritsumeiji.ac.jp/acd/ac/kyomu/kyotuu/enraku.html 補講日や祝日授業日など、学年暦は立命館大学HPから確認してください。
開講形態	前期・春学期 開講曜日・講時 水曜日 1講時
単位数	2 履修年次 2回生以上
会場	衣笠キャンパス
授業定員	
単位互換生定員	10 京カレッジ生定員 10
試験・評価方法	【平常点評価】100% 20%・・授業への出席と議論への参加度合いなど 80%・・授業期間内にレポート（1500-2000字程度）の提出を求める。レポートの課題については授業内に指示する。
超過時の選考方法	書類選考
受講料	京カレッジ生の方のみ、以下の受講料が必要です。 ・科目等履修生：43,400円 ・聴講生：25,800円
別途負担費用	なし
その他特記事項	新型コロナウイルス感染症への対応情報について 立命館大学では、新型コロナウイルス感染症に対する独自の行動指針（BCP）を設け、BCPレベルに応じて授業実施形態や入構制限等を判断しています。 立命館大学の行動指針（BCP）や入構制限状況、その新型コロナウイルス感染症への対策等の情報は以下HPからご確認ください。 < 新型コロナウイルス感染症に関する特設ページ > http://www.ritsumeiji.ac.jp/news/detail/?id=1679#page-title1 シラバスの内容は本掲載内容から変更になることがありますので、立命館大学HPから最新のシラバスを確認してください。 http://www.ritsumeiji.ac.jp/acd/ac/kyomu/gaku/onlinesyllabus.htm 授業定員（全体）の設定はありません。 【諸手続】（単位互換生のみ） 立命館大学では、4/6（火）から順次春学期の授業が始まります。 本科目の受講を希望する場合、受講が許可される前に立命館大学のシステムを利用するための仮受講用IDを発行します。 出願手続きとは別に、下記ホームページで仮受講の案内を確認し、仮受講用IDの発行手続きを行ってください。 < 仮受講用ID発行手続案内ホームページ > http://www.ritsumeiji.ac.jp/acd/ac/kyomu/kyotuu/enraku.html 受講が許可された場合は下記ホームページで手続

	の案内をしますので、必ず期間内に手続して、特別聴講生証を受け取ってください。期間内に指定の手続のない方は、試験の受験や通常授業の受講ができませんので注意してください。 < 受講手続案内ホームページ > http://www.ritsumeiji.ac.jp/acd/ac/kyomu/kyotuu/enraku.html
パッケージ科目	
低回生受講推奨科目	
講義概要・到達目標	<p>【授業の概要】 本科目はジャーナリズムの歴史と現状を解説しながら、民主主義と平和のためにジャーナリズムが果たす役割について考察する。具体的には、ニュースとは何か、ジャーナリズムとは何か、メディアとは何かといった基本的な事柄について学習しながら、それらが市民社会でどのような役割を果たしているかについての理解を深めていく。 最終的には、本講義を受講した学生が情報リテラシーの能力を向上させ、情報の「良き受信者」であると同時に「良き発信者」として社会へ巣立っていくことを目指している。</p> <p>【受講生の到達目標】 1. ジャーナリズムが民主主義社会の維持と発展に果たす役割について、体系的に説明できる。 2. 第2次大戦後の世界の重要な出来事においてジャーナリズムが果たした役割について説明できる。 3. 情報リテラシーの重要性について説明できる。</p> <p>【授業外学習の指示】 1. 近年、ニュースを見ない学生が増加し、大学の講義を理解するために最低限必要な知識を持たない学生が増えている感がある。毎日5分間でよいので、一日一回テレビでニュースを見る習慣をつけること。 2. 紙の新聞を購読しなくてもよいが、毎日15分くらいは、ウェブ版でよいので新聞を読む習慣をつけること。 3. 講義の際に映写するパワーポイント資料は、原則としてコースツール（manaba+R）上に期間限定でアップロードするので、必要に応じてダウンロードまたはプリントアウトし、自宅や図書館での学習において活用すること。（原則として印刷したものは配布しない）</p> <p>【授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法】 インタラクティブシート, manaba+R, 学生との直接対話</p>
講義スケジュール	<p>1 スマホ時代を生きる学生たちへ <キーワード> スマホなしでは生きていけない現代の若者に、最初に伝えておきたいことがある。ジャーナリズム、メディア、ニュースとは何か。事実、真実とは何か。本講義を理解するために必要な基本概念について解説しつつ、国際ジャーナリズム論を学ぶ意義を説明する。</p> <p>2 マスメディアによる国際報道の仕組み <キーワード> 新聞社やテレビ局といったマスメディアとは、どのような組織か。どのようにニュースを取材、編集し、報道するのか。国際報道の実践について元新聞記者である講師の経験を踏まえながら説明し、次回以降の講義の理解を深めるための知的準備を行う。</p> <p>3 国際報道におけるステレオタイプの問題 <キーワード> マスメディアによる情報の「受け手」である市民は、一般に報道内容を「現実」として認識している。だが、報道は本当に現実の世界を忠実に反映しているのか？このセッションでは事例研究を用いて報道におけるステレオタイプの問題を考察する。</p> <p>4 マスメディアとジャーナリズムの起源 <キーワード> マスメディアの存立を技術的に可能にしたのは印刷機の発明である。このセッションでは活字メディアの成立の歴史を学びながら、活字メディアの普及が人間社会に与えた影響について考察する。</p> <p>5 近代マスメディアの成立と発展 <キーワード> 19世紀になると、米国を中心に大衆向けの商業ジャーナリズムが飛躍的に発展し、今日のマスメディアの原型が登場する。その歴史を</p>

追いつつ、商業ジャーナリズムの問題点を考える。

6 戦争とジャーナリズム

<キーワード>

ジャーナリズムは戦争を批判する役割を担う一方で、メディア産業は戦争の報道によって売り上げを伸ばし、時には政府のプロパガンダの道具として戦争に加担してきた。戦争とジャーナリズムの複雑な関係を歴史的に検討する。

7 テレポリティクスの時代

<キーワード>

1960年代以降、先進諸国では、テレビが政治に絶大な影響を与える「テレポリティクス」の時代が始まった。このセッションではテレポリティクスの特質や問題点について考察する。

8 テロリズムとメディア

<キーワード>

人々に心理的な衝撃を与えることを重視するテロリストにとって、マスメディアは欠かすことのできない重要なツールである。本セッションでは米同時多発テロを含む様々なテロの事例を踏まえながら、テロリズムとメディアの関係を考察する。

9 議題設定者としてのメディア

<キーワード>

国際的なニュースの多くは先進国のメディア、とりわけ米英の英語メディアによって取捨選択され、世界に向けて報道される。このセッションでは議題設定者としてのメディアの力に注目し、そこに潜む欧米中心主義などの問題に迫る。

10 スポーツ・ジャーナリズムの諸問題～甲子園の「根性主義」はなぜ続いた？

<キーワード>

東京オリンピック・パラリンピックが開催予定だった2020年に向けて、日本ではスポーツ報道への関心が高まった。しかし、スポーツ・ジャーナリズムは様々な問題を抱えている。高校野球の報道が抱える問題点などを事例に、スポーツ・ジャーナリズムの諸問題を考える。

11 インターネットの衝撃

<キーワード>

インターネットの登場と普及はジャーナリズムにとって革命であった。そのインパクトを功罪両面から考える。

12 フェイクニュースと陰謀論の時代

<キーワード>

SNSの登場によって、誰もがニュースの編集者・発信者になれる今日、ニセ情報、不正確で誤った情報が流通し、時には悪意ある者によって虚報が意図的に拡散されている。また、世界は何者かによって動かされ、メディアは真実を報じないという「陰謀論」が広まっている。その危険性について民主主義社会の危機という観点から考察する。

13 危機の中のジャーナリズム

<キーワード>

人々の新聞離れ、メディア産業への信頼の低下などによって、ジャーナリズムはその存立基盤の根底を脅かされている。ジャーナリズムが機能しない社会では、何が起きるのか。米国の事例などを題材に考えたい。

14 バラエティ番組は世界をどう描いているか。

<キーワード>

いまから17年前にフジテレビが放映したバラエティ番組は、アフリカの社会をどのように描いていたか。描き方の特質は何か。描き方は変わったのか。実際に番組を見ながら、日本の報道機関がアフリカに向けてきた「まなざし」について考察する。

15 まとめと質疑応答

<キーワード>

これまでの授業のポイントを整理し、質疑応答と学生によるディスカッションの時間とする。

【授業実施形態】

担当教員のメールアドレスは次の通り shirato@fc.ritsumei.ac.jp

<開講時点でBCPレベルが2以下の場合>

・1回目の授業はWeb授業で実施します。その後は原則すべての授業を対面形式で行います。

・ただし、受講登録の結果、受講生数が教室定員の50%を上回った場合は、受講生を2グループに分ける等の出席調整を行いながらハイブリッド型の授業を実施します。

・下記の条件に該当し、対面授業に参加できない学生がいた場合は対面授業回についてもWebフォローを実施しますので初回授業までを目途に担当教員に申し出てください。

(Webフォロー対象となる条件)

・学生本人に既往症や基礎疾患のある場合

・学生と同居する家族等への感染の懸念から通学が困難な場合

・海外との往来制限により、学生本人が渡日・入国できない場合

・その他、新型コロナウイルス感染症に関連する理由で学生個人の責に帰さないやむを得ない事情がある場合

・初回授業については受講生数が確定していないことからWeb授業を実施します。

・学期の途中でBCPレベルが3以上に変更になった場合は原則Web授業を実施します(対面授業は実施しません)。

<開講時点でBCPレベルが3以上の場合>

・全15回をWeb授業で行います。

立命館大学のBCPレベルについては以下URL先の1.

立命館大学における新型コロナウイルス感染症に関する対策を参照。

<http://www.ritsumei.ac.jp/news/detail/?id=1679>

教科書

参考書